

第Ⅲ部 実践編

愛知県立惟信高等学校の取組（外国語（英語）科）

－パフォーマンステスト，ルーブリック， 長期的な視野に立った学習指導計画，指導と評価の一体化－

1 はじめに

本校が「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」に取り組み始めてから，今年度で2年目となった。昨年度は，スピーキングテスト，ライティングテストといったパフォーマンステストの実施とルーブリックを用いた評価，CAN-DOリストの作成等が研究の中心であった。一年間，取組を続けてきた中で，まだまだ発展途上ではあるものの，パフォーマンステストの継続的な実施やルーブリックの活用等については，一定の成果を挙げることができた。

今年度は，昨年度までの取組に加え，次の段階として，長期的な視野に立った学習指導計画，指導と評価の一体化といった課題を中心として，本研究に取り組むこととした。

2 研究の目的

今次学習指導要領で示されているコミュニケーション能力の育成を図るため，外国語（英語）科の学習活動について，学習到達目標を明確にしたパフォーマンス課題及びルーブリックを作成し，評価を行う。この評価手法の妥当性・信頼性を高め，生徒の資質・能力の向上を図るための実践的な調査研究を行う。

また，長期的な視野に立った学習指導の実現に向けて，3年間の学習到達目標であるCAN-DOリストを，1年ごとの年間学習指導計画へ，そして単元ごとの指導計画へと関連付けていくための実践的な調査研究を行う。

さらに，指導と評価の一体化という観点から，授業における言語活動を充実させるとともに，言語活動によって生徒が身に付けた力を適切に評価する方法に関する実践的な調査研究を行う。

3 研究の概要

(1) 今年度の研究内容

ア 研究組織

英語科教員を中心に校内研究委員会を組織し，週1回を目安として会議を開催している。本研究の計画・運営について審議するとともに，英語教育に関する研究協議及び情報交換を行っている。また，明治大学国際日本学部の尾関直子教授より，研究全般に関して，随時指導を受けている。

イ スピーキングテスト（3学期は予定）

「外国語表現の能力」のうち「話すこと」の評価を行うために，第1学年のコミュニケーション英語Ⅰで各学期に1回ずつ，第2学年のコミュニケーション英語Ⅱで1・3学期に1回ずつスピーキングテストを実施し，ルーブリックを用いて評価を行っている。各学期のスピーキングテストはそれぞれ20点満点の試験として扱い，評価結果を成績に反映させている。

また，評価結果の再検討及びポートフォリオとしての活用を想定し，テスト中のやりとりはICレコーダーで記録し，保存している。

ウ ライティングテスト（3学期は予定）

「外国語表現の能力」のうち「書くこと」の評価を行うために、第1学年の英語表現Ⅰで各学期に1回ずつ、第2学年の英語表現Ⅱで1・3学期に1回ずつライティングテストを実施し、ルーブリックを用いて評価を行っている。各学期のライティングテストはそれぞれ20点満点の試験として扱い、評価結果を成績に反映させている。

また、事後の検証及びポートフォリオとしての活用を想定し、生徒の解答用紙は全てコピーをとり、保存している。

エ ルーブリック

イ・ウのパフォーマンステストを実施する際、ルーブリックを用いた評価を行っている。評価の妥当性・信頼性を高めるだけでなく、学習指導の過程でもルーブリックを効果的に活用するための方策を研究している。

オ 長期的な視野に立った学習指導計画

長期的な学習指導計画を一つ一つの授業に反映させるために、高校3年間の学習到達目標であるCAN-DOリストを年間学習指導計画へ、年間学習指導計画を単元ごとの指導計画へと反映させる。そのために、CAN-DOリストに対応した本校独自の年間学習指導計画を作成するとともに、単元ごとの学習到達目標を踏まえた指導計画の作成に取り組んでいる。

カ 指導（授業）と評価（テスト）の一体化

指導と評価の一体化に向けて、一つ一つの授業とテストとの結び付きを意識した学習指導を心がけている。特に、学習到達目標を基点として、その目標に向けて、どのように授業の流れをつくっていくのかについて研究を進めている。また、形成的評価という観点から、テストの結果をその後の指導に生かしていくための方策についても研究している。

キ 自己評価、相互評価の充実

授業プリントに自己評価・相互評価のためのルーブリックを導入することにより、生徒の内省を促し、生徒自身の「メタ認知的活動」を促すよう、試みている。

ク ポートフォリオ

第1学年の生徒全員に1人1冊のクリアファイルを配付し、ライティング等の作品やワークシート等を保管させている。生徒自身による「振り返り」を行わせ、自己分析を深めさせたり、学習意欲を向上させたりするために、ポートフォリオとして活用することを検討している。

ケ プロセス・ライティング【巻末資料⑩】

プロセス・ライティングは、一度書いた作品を評価して終わりにするのではなく、「生徒による下書きの提出」→「教員によるコメント」→「生徒による書き直し」というやりとりを何度も繰り返して最終的な作品を完成させていく指導方法である。第2学年の英語表現Ⅱにおいて、夏休み課題として実施し、その成果と課題について検討している。

コ 惟信版クラスルームイングリッシュ表現集

英語による授業を行うに当たり、本校独自のクラスルームイングリッシュ表現集を作成し、生徒に配付した。授業で活用することにより、英語による授業の前提となるクラスルームイングリッシュの習得を目指している。

サ 訪問調査

(ア) 岐阜県立東濃実業高等学校

文部科学省の授業実践事例映像資料に取り上げられた東濃実業高校を訪問し、今次学習指導要領を踏まえた授業の工夫、教員の協力体制や、英語教育についての考え方など、幅広い内容を学んだ。

(イ) 愛知県立常滑高等学校

あいちスーパーイングリッシュ・ハブスクールの指定を受けている常滑高校を訪問し、コミュニケーション活動やパフォーマンステストの実践例、学習内容を定着させるための方策など、さまざまな工夫や取組を学んだ。

(ウ) 京都府立園部高等学校

平成18～20年度に文部科学省からSELHiの指定を受けて以来、先進的な取組を続けている園部高校を訪問し、指導と評価についての考え方、ルーブリックの作成手順の実際、評価の信頼性の確保、オーセンティックな話題を扱うことや低学年からの意識付けの重要性など、さまざまな工夫や取組について学んだ。

シ JTE・ALT共同によるルーブリックの妥当性に関する調査研究

ライティング課題を評価するためのルーブリックをJTEとALTが共同で作成し、その妥当性について検証する。平成27年2月初旬から実施している。

(2) 研究の経過及び予定

6月上旬 第1学年・第2学年 スピーキングテスト、ライティングテスト

～中旬

6月30日(月) 岐阜県立東濃実業高等学校訪問

9月19日(金) 愛知県立常滑高等学校訪問

9月22日(月) 京都府立園部高等学校訪問

10月23日(木) 校内研究発表会…研究授業、明治大学尾関直子教授による指導(惟信高校)

11月上旬 第1学年 スピーキングテスト、ライティングテスト

～中旬

12月10日(水) 明治大学訪問…明治大学尾関直子教授による指導

2月5日(木) 成果発表会…研究授業、大学教授による指導(惟信高校)

1月下旬 第1学年・第2学年 スピーキングテスト、ライティングテスト

～2月上旬

上記以外に、週1回程度を目安として、校内研究委員会を開催している。

4 研究の実際

(1) スピーキングテスト

ア 第1学年 スピーキングテスト

	第1回【巻末資料①】	第2回【巻末資料②】	第3回
ねらい (学習到達目標)	「前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、基礎的な表現を用いて、簡単な情報を伝えたり意見を言ったりする」 【CAN-DO】話すこと（発表）1-4, 1-5	第1回のねらいに加えて、 「基礎的な語句、構文を用いて、絵を見て状況を簡単に描写する」 【CAN-DO】話すこと（発表）1-2	第2回のねらいと同じ。
実施方法	①質問リストを事前に生徒に提示（テストの1週間前に配付・説明）し、当日までに生徒同士で練習して準備するよう指示する。評価の観点も事前に伝える。 ②テストは別室で個別に実施する。試験官役の教員は、質問リストの中から3つの質問（問A～問C）を選び、インタビュー形式で質問する。 ③基本的にはその場で評価をするが、インタビューの内容を録音しておき、必要であれば、事後に他の教員と協議し、評価する。	①質問リストを事前に生徒に提示し、当日までに生徒同士で練習して準備するよう指示する。評価の観点も事前に伝える。 ②テストは別室で個別に実施する。試験官役の教員は、質問リストの中から3つの質問（問A～問C）を選び、インタビュー形式で質問するが、第1回の反省を生かし、暗記だけでは対応できない問題（絵を渡され、その絵に関する質問に答える）も含める。 ③基本的にはその場で評価をするが、インタビューの内容を録音しておき、必要であれば、事後に他の教員と協議し、評価する。	クラス全体の前で、スピーチ形式で行う予定。
評価の観点	・①積極性、②質問を正しく理解しているか、③伝えたい内容を英語で表現できているか、④正確さ（文法のミスがないか）、⑤2文で答えているか（問Cのみ）という観点で評価する。 ・評価は各質問に対する解答を点数化する形式で行う。	・①積極性、②質問を正しく理解しているか、③伝えたい内容を英語で表現できているか、④正確さ（文法のミスがないか）、⑤2文で答えているか（問Cのみ）という観点で評価する。 ・評価は各質問に対する解答を点数化する形式で行う。	検討中
評価の結果	・全体の平均点は20点満点中、17.7点と高得点だった。 ・特に【問A】のYES-NO Question では9割以上の生徒が満点（5点）を取った。 ・【問C】のOpen Question ではフルセンテンス2文で答えなければ満点（7点）にはならないこととしたため、生徒間でやや得点の差が見られた。	・全体の平均点は20点満点中、17.8点であり、第1回と同じであった。第1回より、問題の難易度はやや上がったが、授業中に練習を繰り返し行ったことが高い平均点につながったと思われる。 ・予想どおり【問A】（絵を見て質問に答える問題）では、生徒間で得点に差が見られた。	未実施
所感反省課題	・入学して初めてのスピーキングテストであることから、英語が苦手な生徒にも自信を付けさせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを意図していたが、そういう意味ではねらいどおりの結果となり、「話すこと」に対する学習意欲が高まったと思われる。 ・課題としては、もう少し早めにスピーキングテストの質問項目を作成し、普段の授業で指導すべきであったということが挙げられる。また、今回は暗記すれば高得点が取れるというテスト内容だったが、次回は即興で話す力を測るような質問も入れていきたい。	・教科書の内容や普段の授業で行っている活動とリンクしたスピーキングテストを行うことができた。これを機に授業でのコミュニケーション活動の大切さを再認識させ、さらなるモチベーションの向上につなげていきたい。 ・課題として、同じ問いの中でも、どの質問を選ぶかによって難易度が異なるという意見が出た。また、一問一答という形式にとられず、一つのトピックに関して一定量を発話させた方が、各生徒のもっている英語力が評価にそのまま反映されるという意見もあった。	未実施

イ 第2学年 スピーキングテスト

	第1回【巻末資料③】	第2回【巻末資料④】
ねらい (学習 到達 目標)	「写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる」 【CAN-DO】話すこと（発表）2-4	「基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる」 【CAN-DO】話すこと（やりとり）2-5
実施 方法	①修学旅行についてのスピーチを行う。現地で写真を撮るなどの準備をするよう、修学旅行の前に指示する。 ②修学旅行の後に、授業を1時間程度利用して、テストの実施方法の説明と原稿作成を行う。 ③授業を1、2時間程度利用して、クラス全体の前で発表を行う。発表する際は、写真などの視覚的補助資料を使用する。 ④評価はその場で行う。生徒にも相互評価させる。発表の様子をビデオカメラとボイスレコーダーで記録しておき、必要であれば、事後に他の教員と協議し、評価する。	①ペアでの対話を行う。 ②2学期後半より、授業の中にスマールトークを取り入れ、さまざまな話題についてペアで話す機会を与える。テスト直前には、テストの内容に即した対話の機会を与える。 ③授業を1時間利用して、別室においてペアで実施する。その場でテーマを与え、2分間で対話をさせる。 ④教員（2名）がその場で評価する。対話の様子をビデオカメラとボイスレコーダーで記録しておき、必要であれば、事後に他の教員と協議し、評価する。
評価の 観点	・①content（内容）、②voice（声の大きさ、発音、アクセント）、③non-verbal communication（身振り手振り）④memorization（記憶）という観点で評価する。 ・①は4段階評価とし、②③④は3段階評価とする。 ・全体で20点満点とする。そのうち、①を10点とし、重み付けする。評価結果は2学期の成績に反映する。	・①content（内容：個人）、②content（内容：ペア）、③non-verbal communication（身振り手振り）、④voice（声の大きさ、発音、アクセント）という観点で評価する。 ・①②は4段階評価とし、③④は3段階評価とする。 ・全体で20点満点とする。評価結果は3学期の成績に反映する。
評価の 結果	・1年時から同様のテストを行っているため、慣れている生徒も多く、比較的よくできていた。 ・満点を得ることができた生徒は各クラス1、2名程度であった。 ・発表時の声が小さく、評価が難しい生徒がいた。 ・原稿を全て暗記している生徒はほとんどいなかった。	未実施
所感 反省 課題	・生徒の取組はおおむね良好だった。生徒の実生活と関連のある内容で実施することができた。普段の授業との関連が薄かった点が課題である。 ・英語力の低い生徒は、原稿を作るのに大変苦勞をしていたが、教員がどこまで手を入れるか迷う場面があった。 ・生徒の相互評価シートは回収するだけになってしまい、うまく活用できなかった。成績に反映することも検討したいが、信頼性の面で配慮を要する。	未実施

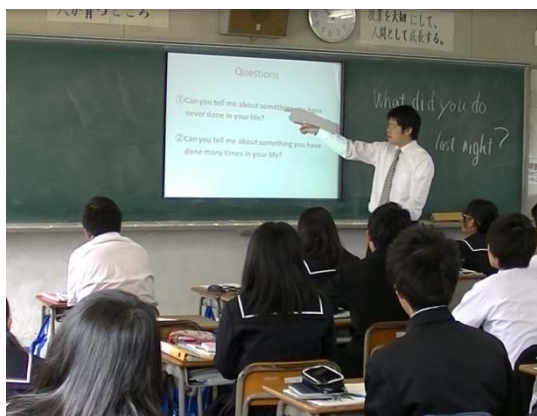


スピーキングの指導とテストの様子

(2) ライティングテスト

ア 第1学年 ライティングテスト

	第1回【巻末資料⑤】	第2回【巻末資料⑥】	第3回
ねらい (学習到達目標)	日々の授業で身に付けた表現を利用して、自分自身の英語の先生を紹介する英文を書くことにより、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 【CAN-DO】書くこと1-1, 話すこと(やりとり)1-2, 1-4	日々の授業で身に付けた表現を利用して、自分自身の好きな本や映画についての英文を書くことにより、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 【CAN-DO】書くこと1-3	第2回までのねらいと同じ。
実施方法	①テーマは「私の英語の先生の紹介」とする。 ②授業時間を利用して、JTEまたはALTにグループごとにインタビューをする。 ③インタビューで得た情報を基に、個別に紹介文を書く。教員の添削指導を受ける。 ④授業を20分間利用して、紹介文を書く。	①テーマは「好きな本や映画の紹介」とする。 ②授業時間を利用して紹介文を書く。教員の添削指導を受ける。 ③授業を20分間利用して、紹介文を書く。	検討中
評価の観点	・①語数、②内容の一貫性、③文や意味の正確さの観点で評価する。 ・語数の下限を設定し、それに満たない場合は、各観点の最高点を下げる。	・①内容の構成、②文の正確さの観点で評価する。 ・語数の下限を設定し、それに満たない場合は、各観点の最高点を下げる。	検討中
評価の結果	・平均点は20点満点中、15.6点であり、全体としては満足できる結果であった。 ・グループでインタビューを行ったため、英語が苦手な生徒も比較的取り組みやすかったと思われる。 ・原稿をしっかりと覚えてきた生徒が多かった。	・平均点は20点満点中、13.3点であり、第1回よりも低い得点であった。 ・内容(映画や本の内容を紹介)の面で、しっかり書けた生徒とそうでない生徒の差が大きかった。	未実施
所感反省課題	・積極的にインタビュー活動に取り組んだ生徒が多かった。 ・英語が苦手な生徒はJTEにインタビューし、英語を積極的に使いたい生徒はALTにインタビューをする傾向が見られた。 ・大半の生徒にとって、教員にインタビューをするという経験は初めてだったため、積極的に英語を話したり、聞いたり、書いたりする姿勢を身に付けさせることができたように思う。	・本や映画の紹介を、相手に分かりやすくできる生徒とそうでない生徒との差が大きかった。 ・普段の授業では、身近な事柄や自分のことについて、簡単な英語を用いて自己表現する機会を多く与えている。しかし、今回のテーマのように本や映画の内容を紹介するには、自分の考えを要約する技術が必要となる。そういう面では、英語が苦手な生徒にとっては、少し難易度が高かったと考えられる。	未実施



ライティングの指導とペアワークの様子

イ 第2学年 ライティングテスト

	第1回【巻末資料⑦】	第2回【巻末資料⑧】
ねらい (学習 到達 目標)	自分の意見を分かりやすく相手に伝えるために、 段落構成を意識した英文を書く。 【CAN-DO】書くこと2-2	環境問題について、その内容を説明するとともに、 解決策として考えられることを書く。 【CAN-DO】書くこと2-3
実施 方法	①授業を20分間利用して、アメリカ人の友人に E-mailを書く。 ②段落構成を意識させる。 ③以下の2つの内容を含めるよう留意させる。 自分が訪れてみたい都市 / そこで何をしたいか	①自分の意見を述べるために必要な表現を提示し、 授業の中で使わせる機会をつくりながら、テスト に向けて準備させる。 ②授業を20分間利用して、以下に示す環境問題の中 から一つを選ばせ、それについて私たちがなすべ きことを書かせる。 global warming / destruction of forests / acid rain / garbage disposal problem ③以下の5つの内容を含めるよう留意させる。 どの問題について述べるか / 何でその問題につ いて知ったか / その問題でどのような困ったこ とが起きているか / その問題の解決のために私 たちは何をすべきか、そしてその理由は何か / 問題解決に向けて、さらに一言
評価の 観点	・①語数、②内容、③構成、④文法の観点で評価す る。	・①語数、②表現、③構成、④文法、⑤holistic impressionの観点で評価する。
評価の 結果	・平均点は20点満点中、11.7点となり、60%程度の 得点率だった。 ・指導の重点と位置付けた段落構成については、構 成(2点満点)の平均点は1.3点(65%)であり、 1年時の状況から考えると、上達している印象で ある。 ・内容(6点満点)の平均点は2.4点(40%)であ り、前述の全体の得点率(60%程度)と比較する と低い値であった。	未実施
所感 反省 課題	・1年時からライティングテストを繰り返し経験し ていることにより、英語を書くことに慣れてきた 生徒が多く、書く分量が増えてきている。 ・内容の得点率が低いのは、表現力が不十分である ことが原因であると思われる。今後も、さまざ まな表現に触れさせながら、表現力を養う必要があ る。	未実施

(3) 長期的な視野に立った学習指導計画

ア 目的

長期的な学習指導計画を一つ一つの授業に反映させるために、高校3年間の学習到達目標であるCAN-DOリストを1年ごとの年間学習指導計画に、1年ごとの年間学習指導計画を単元ごとの学習指導計画に関連付ける。

イ 概要

(ア) CAN-DOリストに対応した年間学習指導計画の作成【巻末資料⑪⑫】

高校3年間全体の学習到達目標であるCAN-DOリストを各学年の年間学習指導計画と関連付けるため、CAN-DOリストに対応した本校独自の年間学習指導計画を作成した。具体的には、県から提示されている年間学習指導計画の様式の一部を本校のCAN-DOリストに置き換えた様式を作成し、活用した。各単元で扱うCAN-DOリストの能力記述文(以下、「CAN-DOステイトメント」という)を○印で示し、その中で特に重点を置くCAN-DOステイトメントを☆印で示した。

このようにして、どの単元でどのCAN-DOステイトメントを扱うのかを明確にした上で、学習

指導を行った。

(イ) 単元ごとの授業プリントの冒頭にCAN-DOステイトメントを記載（第2学年の取組）

それぞれの単元の授業プリントの冒頭に、その単元で扱うCAN-DOステイトメントを記載し、単元を通して生徒が身に付ける力を、教員と生徒で共有した。

上記(ア)(イ)の取組をすることで、3年間の学習到達目標であるCAN-DOリストを1年ごとの年間学習指導計画に、そして単元ごとの学習指導計画に関連付けた。

ウ 成果と課題

この取組の成果としては、本校独自の年間学習指導計画の様式を導入したことにより、どの単元でどのCAN-DOステイトメントを扱うのかという、学習指導計画の全体像が俯瞰できるようになったことが挙げられる。また、単元ごとの目標が明確に示されているため、その単元で行う言語活動を計画する際のよりどころができ、立案が容易になった。

一方、課題としては、実際に学習指導に取り組む中で、年間学習指導計画の内容を修正する必要がある出てきたということが挙げられる。年度当初に一年間を見通し、十分な検討を経て作成したつもりであったが、その時々生徒の学習状況等を見ながら、適宜修正を加えることとなった。また、指導と評価の実践を繰り返す中で、追加の必要性を感じるCAN-DOステイトメントも出てきている。今後も、少しずつ修正を加えていくことによって、完成度を高めていくことができると考えている。

(4) 指導（授業）と評価（テスト）の一体化【第1学年 第1回ライティングテストの取組】

ア 目的

昨年度の第1学年が実施したライティングテストに関する反省の一つに、テストに向けての事前指導が十分ではなかった点がある。テストは生徒が身に付けた力を測るために行うものであり、「指導したことを評価する」ことが重要である。そこで、今年度の第1学年のライティングテストは、授業における指導とテストによる評価の関連に焦点を当て、指導と評価の一体化を目指した。

イ 概要

(ア) 第1回ライティングテスト【巻末資料⑤】

今回のライティングテストでは、本校の英語教員に英語でインタビューを行い、その内容を基に教員の紹介文を書くという課題を設定した。グループごとにインタビューの準備と実践を行わせた後で、個別で紹介文を書かせた。その後、グループ内でそれぞれの紹介文の改善点を指摘させ合ったり、教員からの指導を与えたりして、各生徒が紹介文を完成させた。

ループリックの作成に当たっては、評価の妥当性を高めるための取組を実践した。具体的には、別の学年の生徒10名程度に同じ内容の課題を与え、作成させた紹介文を、仮に作成したループリックを用いて採点した。その後、教員間で協議を行い、ループリックに修正を加えた。巻末資料⑤にあるループリックは修正後のものである。

(イ) 授業実践例

【学習指導案】

1	教科・科目	英語表現 I	
2	単元名	Meet my best friend (親友を紹介します)	
3	単元の目標	・インタビューした内容を基に、本校の英語教員を紹介する英文を書く。	
4	単元の指導計画 (全5時間)		
	配当時間	指導内容	
	1次 (1時間)	グループごとにインタビューする教員 (授業担当の J T E または A L T) を決める。グループごとにインタビューの質問内容を考える。	
	2次 (1時間) ※本時	グループ内でインタビューの練習を行った後、教員にインタビューを行う。インタビューで得た情報を基に、個別に紹介文を書く。	
	3次 (1時間)	教員は、各生徒が書いた紹介文についてルーブリックを用いて評価し、改善点を伝える。改善点を参考にして、紹介文を修正する。	
	4次 (1時間)	自分が書いた紹介文を覚えて、制限時間内に紹介文を書く練習を行う。	
	5次 (1時間) ライティングテスト	覚えた英文を基にして、最終的な紹介文を書く。	
5	本時の展開		
		学習活動 (生徒)	指導上の留意点 (教員)
	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の説明を聞き、本時の流れを把握する。 ・グループに分かれ、インタビューにおける質問担当者を決定し、質問の練習を各グループで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをする際に、ワークシートを見ずに相手に質問ができるように、互いに練習させる。 ・正しい発音、イントネーションで話しているかを確認、指導する。
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・教員にインタビューを行う。 ・インタビューの内容をメモに取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のインタビューに答える。 ・生徒の反応を確認しながら、必要に応じて難しい表現を簡単な表現にパラフレーズするなど、答え方を工夫する。
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューのメモを参考に、教員の紹介文を各自で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず個別に紹介文を書かせる。その後、グループ内で互いの英文を確認させる。
6	評価手法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・ワークシート 	

(ウ) 生徒の実践例【巻末資料⑨-1~3】

巻末資料⑨-1~3に、今回のライティングテストにおける取組において、同じ生徒が作成した実践例を示す。

巻末資料⑨-1は第1次で作成した質問リストである。インタビューの質問内容は、グループごとに考えさせた。初めから英語で質問を作成するのが望ましいが、英語力が低い生徒にも配慮し、日本語で質問を考えさせ、それを英語に直させた。グループで話し合わせることにより、多様な質問を作成させることができた。

第2次前半では、実際に教員に対するインタビューを行わせ、その内容をメモに取らせた。メモを

取る際は、英語で書いても日本語で書いてもよいこととした。巻末資料⑨－２は、インタビューで作成したメモである。“Japan”，“reading a book”，“listen to music”など自分の書ける内容は英語で書いており、聞いた内容をできるだけ英語でメモしようとしていたことが分かる。

第２次後半では、インタビューのメモを参考に、教員の紹介文を書かせた。個別で書かせた後、グループ内で確認させ、改善点等を指摘し合った。その後、教員が回収し、ループリックを活用して評価、添削の上、返却した。

巻末資料⑨－３は、指摘された改善点等を踏まえ、第５次のライティングテストで書いた英文である。“Because when he was junior high school student～”の部分で、“a”が抜けている箇所があるが、それ以外は語数、内容、正確さのどの観点においても十分な英文となっている。ループリックに基づき、この作品には満点の評価を与えた。

テストが終わった後、この生徒は、「指導の段階でのフィードバックがなければ、何が正しくて何が正しくないかが分からない。フィードバックをもらうことで、もっとよいものを書こうと思えた」という趣旨の発言をしていた。指導の段階からループリックに基づいた評価を行い、改善点とともに示すことにより、生徒のモチベーションを維持することができたと考えている。

(エ) 事後アンケートの実施

ライティングテストを実施した後、生徒のライティングテストに関する意識を調査するため、アンケート調査を行った。設問の内容は以下のとおりであり、それぞれ４段階で回答させた。

設問 1	ライティングテストに向けて熱心に取り組みましたか
設問 2	ライティングテストはよくできたと思いますか
設問 3	ライティングテストはあなたのライティング能力を向上させるのに効果があったと思いますか
設問 4	ライティングテストは書く力を向上させるために重要だと思いますか

設問 1 において、「熱心に取り組んだ」「取り組んだ」と答えた生徒は合わせて 84%であった。この結果から、大半の生徒がライティングテストに向けて前向きに取り組んだと言える。

設問 2 において、「強くそう思う」「そう思う」と答えた生徒は合わせて 74%であった。テストの平均点が 15.6 点と高い得点であったことも含め、多くの生徒が学習結果に満足していると言える。

設問 3 において、「強くそう思う」「そう思う」と答えた生徒は合わせて 74%であった。この結果から、多くの生徒がライティング能力の向上を実感していることが分かる。

設問 4 において、「強くそう思う」「そう思う」と答えた生徒は合わせて 83%であった。この結果から、大半の生徒がライティングテストの重要性を認識していることが分かる。

以上の結果より、多くの生徒が、ライティングテストの意義を理解し、前向きな姿勢をもっていることが分かった。

ウ 成果と課題

(ア) 成果

今回のライティングテストに関わった全ての教員が、テストに向けての指導手順は非常に効果的であったと考えている。理由は主として 3 点ある。1 点目は、教員がループリックを活用し、生徒の書いた作品に対して、繰り返しフィードバックを与えることができた点にある。前述のように、本校の生徒の英語力は比較的低い状況にある。教員が単に例文を示して、その例文を使って自己表現をさせようとしても、言いたいことをうまく表現できない生徒が多い。教員が生徒の書いた英文を見て、何

ができていて何ができていないかを示すことによって、よい点や改善すべき点に気付かせることができる。モチベーションを維持したり、安心感を与えたりする意味でも、指導の段階においてルーブリックを活用することは有効だと思われる。

2点目は、生徒がライティングテストの準備に主体的に取り組んだ点である。特にインタビュー活動には、多くの生徒が熱心に取り組んでいた。ALTと直接コミュニケーションをとることが、生徒の動機付けにつながったようである。ライティングテストを書くだけのものにとどめず、「インタビューした結果を書く」というような統合的な活動とし、教員と生徒の英語によるインタラクションを通して4技能を高めようとするのは、非常に大切な視点だと考えている。

3点目は、事前に教員間でルーブリックを共有したことにより、何に重点を置いて指導するかが共有できた点である。上述のように、ルーブリックを作成する際には、別の学年の生徒を対象に行った模擬評価を基にして、その妥当性を高める取組を行った。時間と労力を要する作業ではあったが、指導と評価の前提となるルーブリックの作成に時間をかけたことにより、指導や評価の実践は予想していた以上にスムーズに進んだと感じている。

(イ) 課題

今回のライティングテストに関する課題を2点挙げる。

1点目は、ライティングテストの目的の設定についてである。今回のライティングテストは、英語を苦手とする生徒に配慮し、授業で完成させた英文を正確に覚えて書かせることを目的とした。英文を作成するプロセスに重きを置き、指導を重ねることで完成度を上げ、「書ける」という自信をもたせたいと考えたからであった。

しかし、アンケート調査の自由記述欄には、「今回のテストは暗記するだけのテストである」「今回のテストは単純に暗記をすれば高い点数が取れるから、ライティング能力が向上するとはあまり思えない」という意見も少なからず見られた。

今回のライティングテストを実施するに当たり、教員の間でライティングテストの意義や目標について協議を行った。自分の伝えたい内容を即興で話したり書いたりする能力を育成することが、指導の最終目標である。しかし、日々の指導の中で、多くの生徒が自分の力で英文を書くことを苦手に行っている。このような現状を踏まえ、今回は、事前に指導を加えて完成させた原稿を覚えて書かせることに重きを置いた。

しかし、書くことが苦手な生徒でもこのような感想をもつということは、比較的英語力の高い生徒の中にも、「暗記して書いた英文ではなく、即興で書いた英文を評価してもらいたい」と考えている生徒が少なくないと思われる。授業で習得した知識を測る面と習得した知識を活用して表現する力を測る面のバランスを考慮した上で、ライティングテストを実施する必要があること、教員がどのような意図で指導と評価を実施するのかを生徒に十分に理解させることが重要であることに気付かされた。

2点目は、評価基準についてである。評価を行う中で、ルーブリックの中の「Accuracy」の捉え方について、教員による差異が見られた。事前に議論を重ねて作成したものであったが、まだ十分ではなかったことが分かった。ルーブリックの捉え方の違いは、評価だけでなく指導にも影響を及ぼすものである。ルーブリックの妥当性、信頼性については、今後も研究を続けることが必要である。

5 実践のまとめと考察

(1) 評価の妥当性と信頼性

指導と評価の実践を通して、評価の妥当性・信頼性を高め、ルーブリックの効果的な活用方法を研

究していくことは、本研究の第一の目的である。

評価の妥当性については、測りたい力を的確に測ることができるかという点を常に意識して、パフォーマンステストの計画立案とルーブリックの作成を行ってきた。具体的な取組としては、類似した内容のテストを事前に別の学年の生徒を対象に実施し、その結果を基にパフォーマンス課題やルーブリックを修正した。このような取組により、評価の妥当性について十分に検討した上で、当該学年のパフォーマンステストを実施することができた。

また、評価の信頼性を確保するために、次のような工夫をした。まず、事前に幾つかの解答例を評価者全員で採点し、評価基準のイメージを共有した。さらに、頻出する解答例については、評価者同士で随時打ち合わせを行い、評価基準の共通理解を図った。さらに、テスト後に評価結果を再検討できるように、スピーキングテストではインタビューやスピーチの様子をICレコーダーで記録したり、ライティングテストでは生徒の解答をコピーして保存したりした。このような取組により、評価の信頼性を高めることができていると考えている。

(2) ルーブリックの活用

ルーブリックには「学習の指針」としての側面がある。ルーブリックを生徒に事前に示すことにより、学習を通して生徒が身に付ける力を明確に伝えることができるからである。今年度の取組では、学習において重視させたい項目をルーブリックの評価項目に含めることにより、生徒の学習の方向付けにつなげた。具体的には、ライティングテストの評価項目に「Structure of content (内容の構成)」を導入することで、文章の構成を意識するよう促したり、「語数」を導入することで、積極的に書くという姿勢を身に付けさせたりすることができた。

また、授業プリントに自己評価、相互評価のためのルーブリックを導入することにより、目標の達成状況をその都度振り返らせたり、授業プリントで取り上げた評価項目をパフォーマンステストの評価項目にも加えることにより、普段の授業とパフォーマンステストとのつながりを意識させたりすることができた。

(3) 長期的な視野に立った学習指導計画

長期的な視野に立った学習指導の実現に向けて、今年度は、CAN-DOリストの内容を盛り込んだ年間学習指導計画の作成、CAN-DOステイトメントの授業プリントへの記載といった取組を行った。これらの取組の成果として、学習指導計画の全体像が俯瞰できるようになり、単元ごとの目標が把握しやすくなったこと、授業におけるコミュニケーション活動の目的を明確に示すことができるようになったことなどが挙げられる。CAN-DOリストや年間学習指導計画については、今後も生徒の実態等に合わせて、適宜修正を加えていきたい。

(4) 指導と評価の一体化

今年度は、学習到達目標（＝パフォーマンステストにおける合格ライン）を基点として、その目標に向けて、どのような指導を行っていくのかという観点に重きを置いた学習指導を心がけた。

本校では、「事前指導→パフォーマンステスト」というプロセスが定着しつつあり、一つ一つの授業とテストとの結び付きを意識した学習指導ができるようになってきた。この点は、昨年度から本研究に携わってきた成果であると言える。

例えば、第1学年ライティングテストに向けての実践例にあるように、生徒のライティング作品に対して、事前指導の段階からルーブリックを活用しながら繰り返しフィードバックすることで、テストに向けて何ができて何ができていないかを生徒自身に把握させ、学習を支援することができた。またテスト終了後には、評価結果とともに具体的に何が間違っていたかを記入した答案を返却したため、

生徒は自分の達成度を客観的に把握することができた。

一方、課題としては、スピーキングテストにおいて、効果的にフィードバックを行うことができなかったことが挙げられる。第1学年のスピーキングテストでは、事前指導において、例文を提示したり、練習の機会を与えたりしたものの、個人に対してはフィードバックを行わなかった。加えて、スピーキングテストは音声によって行なわれるため、テスト終了後、的確にフィードバックすることが困難であった。このように現行の手順では、生徒に自分の達成度を正確に把握させることができていない。今後、スピーキングテストにおいて、効果的にフィードバックを行う方法を研究していく必要がある。

(5) その他の取組

今年度の研究内容に挙げた項目のうち、ポートフォリオについては、作品やワークシートの保管をさせているが、具体的な活用にまでは至っていない。また、プロセス・ライティングについては、第2学年の英語表現Ⅱにおいて夏休み課題として実施したが、全体としての生徒の取組状況が良好であったとは言えず、成果と課題について十分に検証することができなかった。これらの研究については、次年度も継続して取り組んでいきたいと考えている。

6 成果と課題

(1) 実践の成果

ア 生徒の変化

第1学年の第1回及び第2回のスピーキングテスト及びライティングテストの後に、生徒にアンケート調査を実施した。以下にその結果を示す。

(ア) スピーキングテスト

<設問1>スピーキングテストに向けて熱心に取り組みましたか。

	第1回	第2回
1 熱心に取り組んだ	41%	35%
2 取り組んだ	49%	54%
3 あまり取り組んでいない	8%	8%
4 全く取り組んでいない	2%	3%

<設問3>スピーキングテストはスピーキング能力の向上に効果があったと思いますか。

	第1回	第2回
1 強くそう思う	21%	23%
2 そう思う	62%	61%
3 あまり思わない	16%	13%
4 全く思わない	1%	3%

<設問2>スピーキングテストはよくできたと思いますか。

	第1回	第2回
1 強くそう思う	20%	21%
2 そう思う	54%	54%
3 あまり思わない	24%	22%
4 全く思わない	2%	3%

<設問4>スピーキングテストは話す力を向上させるために重要だと思いますか。

	第1回	第2回
1 強くそう思う	34%	31%
2 そう思う	57%	59%
3 あまり思わない	8%	8%
4 全く思わない	1%	2%

(イ) ライティングテスト

<設問1>ライティングテストに向けて熱心に取り組みましたか。

	第1回	第2回
1 熱心に取り組んだ	31%	33%
2 取り組んだ	53%	46%
3 あまり取り組んでいない	12%	17%
4 全く取り組んでいない	4%	4%

<設問2>ライティングテストはよくできたと思いますか。

	第1回	第2回
1 強くそう思う	14%	11%
2 そう思う	60%	40%
3 あまり思わない	24%	37%
4 全く思わない	2%	12%

＜設問3＞ライティングテストはライティング能力の向上に効果があったと思いますか。

	第1回	第2回
1 強くそう思う	14%	14%
2 そう思う	60%	64%
3 あまり思わない	24%	19%
4 全く思わない	2%	3%

＜設問4＞ライティングテストは書く力を向上させるために重要だと思いますか。

	第1回	第2回
1 強くそう思う	26%	28%
2 そう思う	57%	58%
3 あまり思わない	15%	13%
4 全く思わない	2%	1%

スピーキングテスト、ライティングテストのそれぞれで、第1回、第2回ともに、全ての質問項目において、肯定的な回答が多数を占めた。指導と評価のつながりを考えた実践を行ったことにより、生徒に対する動機付けとテストの意味付けができたのだと思う。パフォーマンステストを実施する上では、生徒に自信を与えることや意欲を高めることが重要である。今後もこうした状況を維持していきけるように、指導と評価の一体化に取り組んでいきたい。

なお、アンケートの自由記述欄には、「友人と一緒に練習することができ、楽しく準備ができた」「テストのおかげで、英語を話すこと（書くこと）の大切さに気付いた」「話すことに自信が付いた」「英語を使うことで、初めて気付くことがあった」「(テストの事前指導の段階で)英語を書くというプロセスが大切なのだと分かった」というような回答が見られた。一方で、「事前指導で準備した解答を暗記してしまえば、テストに対応できてしまう」という回答も目立った。生徒のモチベーションを維持しながら、「チャレンジしてみよう」と思わせることのできるレベルの課題を工夫し、生徒の英語力とコミュニケーション能力を更に伸ばしていきたい。

イ 教員の変化

ルーブリックには、「学習の指針」としての側面と「評価基準」としての側面がある。ルーブリックを評価場面だけでなく、指導場面においても活用することにより、学習到達目標を意識した指導と評価の流れをつくることが可能になった。特に、自己評価・相互評価のためのルーブリックを授業プリントに掲載したことにより、しっかりと目的意識をもって言語活動に取り組ませることができるようになった。

また、副次的な変化ではあるが、ルーブリックを教員同士で協力して作成し、活用するという取組を進めるに当たり、教員間でコミュニケーションをとる機会が増え、結果としてチームワークが向上した。今後も学年、学校として一体となり、指導と評価の改善に取り組んでいきたい。

(2) 今後の課題

ア 40人クラスでの指導や評価の負担

授業における言語活動、パフォーマンステストの実施、生徒の作品の添削や評価等、40人クラスの指導や評価には課題が多いと感じている。今次学習指導要領に基づき、言語活動を中心とした授業を展開していくためには、少人数クラスが望ましいと考える。しかしながら、現状ではそうした環境整備は難しいため、生徒が主体となって進めることのできる言語活動を工夫する、あらかじめ年間学習指導計画にパフォーマンステストの計画を入れる、教員同士の協力体制を充実させる、誰もが活用しやすいルーブリックを作成する等の工夫を行っている。今後も、負担を軽減しながら、効果的な指導と評価を行う方法の検討を続けていきたい。

イ 教員の負担

今次学習指導要領に基づき、「外国語表現の能力」を育てていくためには、ライティング作品やスピーキング原稿等、多くの添削指導を行う必要があり、教員にかかる負担は大きくなっている。また、

パフォーマンステストの実施に当たっても、計画立案からテストの実施、採点に至るまで教員の負担は大きい。ポイントを絞った添削指導を行う等の工夫をしているが、過年度の枠組みの有効活用や効果的な作業分担など、無理のない、持続実施可能な計画や方法を更に検討していく必要がある。

ウ 長期的に取組を継続していくための組織づくり

今次学習指導要領に基づく言語活動を中心とした授業、CAN-DOリスト・年間学習指導計画・単元計画等の作成、パフォーマンステストの実施等を推し進めるためには、教員全体が一つのチームとなり、共同体制で取り組んでいかなければならない。そのためには、さまざまな考えをもった教員同士がしっかりとコミュニケーションを図り、同じ方向を向いて学習指導に携わる必要がある。このような考えの下、本校では教員間の意見交換を密に行いながら、CAN-DOリストや年間学習指導計画の作成を進めてきた。

本校のような公立学校では、年度ごとに教員の異動があり、常に担当者の入れ替わりがあるが、CAN-DOリストは学校としての学習到達目標であり、担当者の交代によって目標や指導方法が変わるというような事態は望ましくない。学校として一貫した取組を続けていくためには、「教科指導」の研究に加えて、管理職のリーダーシップに支えられた「組織づくり」「マネジメント」といった視点も大切であると考えます。

7 おわりに

本校が「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」に携わり2年目が終わろうとしている。昨年度は、パフォーマンステストとルーブリックを用いた評価、CAN-DOリストの作成を中心に取り組んだ。今年度は、次の段階として、長期的な視野に立った学習指導計画、指導と評価の一体化等を中心に取り組んだ。特に今年度の取組については、新たな領域ということもあり、手探りの中での進行となった。そのため、未だ課題も多く、これらの取組の成果について十分な検証ができていない。次年度は、この2年間で行ってきた取組の質を高めていくとともに、それらの成果をしっかりと検証していきたいと考えている。

参考文献等

- 国立教育政策研究所（2012）『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』
- 田中耕治（2010）『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房
- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』文部科学省
- James Dean Brown（2012）. *Developing, Using, and Analyzing Rubrics in Language Assessment with Case Studies in Asian and Pacific Languages*. National Foreign Language Resource Center, University of Hawaii at Manoa.

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けたコミュニケーション能力（スピーキング能力）を確認し、活発な言語活動の一助とする。

対象 1学年全員

科目 コミュニケーション英語 I

日程 6月9日（月）～6月13日（金）までの間で、1クラスにつき2時間分の授業で実施する。

会場 原則、授業時間を利用する。ただし、予想以上に時間を要する場合は、星放課や授業後を利用する。

役割 面接教室 → 移動教室

自習教室 → HR教室

試験官1名

教室監督1名

実施方法 質問リストを事前に生徒に提示し（原則テスト①の1週間前にプリントを配布し説明をする）、当日までに準備するよう指示。質問【B】に関しては普段の授業の中で練習しておく。生徒には評価の観点を前もって伝えておく。当日、生徒は各教室でインタビュアーとの勉強あるいは、自習を行う。今回は、出席番号順に面接を行うので自分の順番が来たら、生徒は試験会場へ移動し、一人ずつ試験官とインタビュアーを行う。（1番の者が試験を受けている間、後5名の者は廊下の椅子で静かに待機する。）試験官はインタビュアーの内容を録音し、必要であれば、後ほど担当教員らで評価する。基本的にはその場で評価をする。インタビュアーが終わった生徒は、教室に戻り、静かに自習する。

試験時間 一人2～3分程度とする。質問は以下のようにする。

【Warm-up】①②両方とも。

【A】テキストからの質問①②から1つ。

【B】日常会話の質問①②から1つ。

【C】Open question①～②から1つ。原則、2文以上で答える。

《注意》質問は基本的には2回まで繰り返すことができる。

List of questions

【Warm-up】

① Could you tell me your name?
② How are you today?

【A】

① Do you study English every day?
② Do you make your bento every day?

【B】

① What did you do last weekend?
② What are your plans for the weekend?

【C】

*原則2文以上。
① What do you enjoy in your free time?
② What do you want to do in the future?

第1回スピーキングテスト
評価表 ()組 ()番 氏名 ()

項目	評価基準	評価	点数	結果
Attitude	積極的に取り組む姿勢が見られる。	A	3	
	取り組もうとしている。	B	1	
	取り組む姿勢が見られない。	C	0	
【A】	質問を正しく理解している。フルセンテンスで文法的なミスもほぼなく、必要な情報を伝えることができている。	A	5	
	質問を正しく理解している。フルセンテンスではなく、文法的なミスも見られるが、相手に必要な情報を伝えることができている。	B	4	
	質問を正しく理解しておらず、正しい答えではないが、相手に伝えるように答えている。	C	3	
	質問が理解できず、何も答えることができない。	E	0	
	質問を正しく理解している。フルセンテンスで文法的なミスもほぼなく、必要な情報を伝えることができている。	A	5	
【B】	質問を正しく理解している。フルセンテンスではなく、文法的なミスも見られるが、相手に必要な情報を伝えることができている。	B	4	
	質問を正しく理解しておらず、正しい答えではないが、相手に伝えるように答えている。	C	3	
	質問が理解できず、何も答えることができない。	E	0	
	質問を正しく理解している。2文フルセンテンスで文法的なミスもほぼなく、必要な情報を伝えることができている。	A	7	
	質問を正しく理解している。2文で文法的なミスは見られるが、相手に必要な情報を伝えることができている。	B	5	
【C】	質問を正しく理解している。1文ではあるが、文法的なミスもほぼなく、必要な情報を伝えることができている。	C	3	
	質問を正しく理解しておらず、正しい答えではなく、あまり相手に言いづらいことが伝わらない。	D	2	
	質問が理解できず、何も答えることができない。	E	0	
TOTAL			/20	

評価基準について

- 全体を通して
- ①冠詞や前置詞のミスは不問。
 - ②主語や時制のミスはB～。
 - ③質問の繰り返しを3回以上求めた場合はC～Eの評価をする。
 - ④「I don't know」という返答をした場合、Eの評価をする。

各設問について

- 【Attitude】答えに工夫が見られ、努力している姿が見受けられた場合、Aの評価をする。
- 【Warm-Up】については評価しない。
- 【A】教科書からの質問。
文で答えていない場合はB～。
- 【B】基本的な日常会話の質問。
文で答えていない場合はB～。
- 【C】自分のことを表現する。（英語表現Iとからんでいる質問もある。）
原則2文以上で答える。
1文で答えた場合はC～。

巻末資料②

平成26年度 1年生 第2回スピーキングテスト実施要項

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けたコミュニケーション能力（スピーキング能力）を確認し、活発な言語活動の一助とする。

対象 1学年全員

科目 コミュニケーション英語1

日程 11月17日（月）～11月21日（金）までの間で、1クラスにつき2時間分の授業で実施する。

原則、授業時間を利用する。ただし、予想以上に時間を要する場合は、星放課や授業後を利用する。

会場 面接教室 → 移動教室

役割 自習教室 → HR教室

試験官1名

教室監督1名

◆役割は各担当者で相談して決めてください。原則、自分が受け持っている生徒をインタビュアーする。
 実施方法 質問リストを事前に生徒に提示し（原則テスト①の1週間前にプリントを配布・説明し、授業時間1時間を使ってスピーキングテストの練習をする）、当日までに生徒同士で練習して準備するよう指示。生徒には評価の観点をもっておく（評価表は質問リストの裏面につけ配布）。当日、生徒は各教室でスピーキングテストの勉強あるいは、自習（英単語プリント）を行う。今回は、出席番号順に面接を行うので自分の順番が来たら、生徒は試験会場へ移動し、一人ずつ試験官とインタビュアーを行う。（受験者が試験を受けている間、後5名の者は廊下の椅子で静かに待機する。）試験官はインタビュアーの内容を録音し、必要であれば、後ほど担当教員らで評価する。基本的にその場で評価をする。インタビュアーが終わった生徒は、教室に戻り、静かに自習する。一人2～3分程度とする。質問は以下のようにする。

【Warm-up】①②両方とも。

[A] Groveの各Lesson2, 3, 4, 5, 8の最初のページにあるいずれかの絵を見せて質問をする。
 質問①～③から1つ。
 ※1生徒には範囲を Lesson 1～Lesson 8と伝えておく。

※2授業で前もって説明するときは、範囲外のLESSONのものを使う。

[B] テキスト Lesson4“How about you?”からの質問①②から1つ。

[C] テキスト Lesson6“What do you think?”からの質問①～③から1つ。原則、2文以上で答える。
 ※注意 質問は基本的には2回まで繰り返すことができる。

List of questions.

【Warm Up】

① Could you tell me your name?

② How are you today?

[A] Look at the picture and answer the question.

① What is (s)he doing? / What are they doing?

② What is (s)he going to do? / What are they going to do?

③ What did s(he) do? / What did they do?

[B] Lesson 4 ～

① What do you usually do during the breaks at school?

② Which subject do you like?

[C] Lesson6、英語表現～ 2文以上

① What do you want to be in the future?

② When do you feel happy?

③ What is your favorite book or movie?

第2回スピーキングテスト（ ）番 氏名（ ）

評価表

項目	評価基準	評価	点数	結果
Attitude	積極的に取り組む姿勢が見られる。 取り組もうとしている。 取り組む姿勢が見られない。	A B F	3 1 0	
[A]	フルセンテンスで文法的なミスもほぼなく、必要な情報を正しく伝えることができている。 フルセンテンスではなく、文法的なミスも見られるが、相手に必要な情報を伝えることができている。 正しい答えではないが、相手に伝えるように答えている。	A B C	5 4 3	
[B]	何を言いたいのか分からない、または何も答えることができない。 フルセンテンスで文法的なミスもほぼなく、必要な情報を伝えることができている。 フルセンテンスではなく、文法的なミスも見られるが、相手に必要な情報を伝えることができている。 正しい答えではないが、相手に伝えるように答えている。	A B C	5 4 3	
[C]	何を言いたいのか分からない、または何も答えることができない。 2文フルセンテンスで文法的なミスもほぼなく、必要な情報を伝えることができている。 2文で文法的なミスは見られるが、相手に必要な情報を伝えることができている。 1文ではあるが、文法的なミスもほぼなく、必要な情報を伝えることができている。 正しい答えではなく、あまり相手にも言いたいことが伝わらない。 何を言いたいのか分からない、何も答えることができない。	A B C D F	7 5 3 2 0	
TOTAL			120	

評価基準について

全体を通して

① 冠詞や前置詞のミスは不問。

② 主語や時制のミスはB～

③ 質問の繰り返しを2回以上求めた場合はC～Fの評価をする。

④ “I don't know!”という返答をした場合、Fの評価をする。

各設問について

[Attitude] 答えに工夫が見られ、努力している姿が見受けられた場合、Aの評価をする。

[Warm-Up] については評価しない。

[A] Groveの各Lesson2, 3, 4, 5, 8のいずれかの最初のページにある絵からの質問（試験官が1つ選択）。文で答えていない場合はB～

[B] CometのLesson4からの質問。
文で答えていない場合はB～

[C] CometのLesson6、英語表現の授業からの質問。
原則2文以上で答える。
1文で答えた場合はC～

巻末資料③

平成26年度 2年生 第1回スピーキングテスト実施要項

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けたコミュニケーション能力（スピーキング能力）を確認し、活発な言語活動の一助とする。

対象 2学年全員

科目 コミュニケーション英語Ⅱ

日程 6月2日（月）から13日（金）までの1～2時間を使用して実施する

会場 ホームルーム教室（文A）またはホームルーム教室と特別教室（文B、理）

評価方法 ループリックを用い、生徒同士で評価し合う。教員もループリックを用いて評価をする。

実施方法 ①事前に修学旅行についてのスピーチを行うので、現地で写真を撮ったりして準備をしてくるように指示する。

②授業時間を1時間程度利用して、スピーキングテストの説明、原稿作成などを行う。

③授業時間を1～2時間程度利用して発表を行う。生徒は相互評価を行う。教員も同時に評価をする。また、ボイスレコーダー（ビデオカメラ）で記録する。

CAN-DO リスト 【話す（発表④）】

写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。

ループリック（教員用）

評価項目 content	評価基準			内容が乏しい。何を伝えたいのかわからない内容である。
	1 0	6 3	3 0	
voice	適度な音量で、はっきりと最後まで聞き取れる。 2	声がやや小さい/大きい聞き取ることができない。 1	声が小さすぎたり聞き取ることができない。 0	内容が乏しい。何を伝えたいのかわからない内容である。
non-verbal communication	発音やアクセントを意識して読むことができる。滑らかである。 2	少々聞こえないが、発音やアクセントを意識している。 1	発音やアクセントをまったく意識していない。間違が多々ある。 0	発音やアクセントをまったく意識していない。間違が多々ある。
memorization	適度に聞いている人たちを見たり、効果的に身振り手振りをすることができている。品物や写真などを用いて発表している。 3	目線や身振り手振りを意識することができている。品物や写真などを用いて発表している。 2	目線や身振り手振りをまったく意識することができない。あるいは、品物や写真を用意していない。 0	目線や身振り手振りをまったく意識することができない。あるいは、品物や写真を用意していない。
total score	3	2	0	0

★巻末資料④

平成26年度 2年生 第2回スピーキングテスト実施要項 (案)

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けたコミュニケーション能力 (スピーキング能力) を確認し、活発な言語活動の一助とする。

対象 2 学年全員

科目 コミュニケーション英語Ⅱ

日程 2 月上旬 (1 週目?)

会場 特別教室 (第2、3 学習室、視聴覚教室など)

評価方法 ルーブリックを用いて評価をする。

実施方法 ①2 学期後半より、授業中にスモールトークを取り入れ、英語を話す機会を与える。スピーキングテスト直前1 時間は本番に即した練習を行う。
②授業時間1 時間を利用して、別室においてペアでやりとりをさせる。ペアは名簿順で作る。制限時間2 分。教員は同時に2 名を評価する。ボイスレコーダー (ビデオカメラ) で記録する。
③体調不良等の当日欠席により、受験できなかった生徒は別日を設ける。

CAN-D0 リスト 【話す (やりとり) ⑤】
基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたら、断ったりすることができる。

★会話の流れ★

①あいさつをする (How are you doing? などを使って相手の調子を聞くこと)

② A : 相手を○○に誘う (○○の内容はその場で試験官から指示を受けること)

↓
③ B : 誘いを断る (必ず理由を述べること)

↓
④ペアで協力して、新たな約束の待ち合わせ日時と場所を決める
(ペアの最終目的!!! どちらが提案しても構わない)

↓
⑤あいさつをして別れる

★RUBRIC

評価項目	評価基準			
	適切な表現を使用し、スムーズに相手を誘うことができた。工夫も見られた。	使用した表現が完璧でなかったり、ただし良い点はあるが、相手を誘うことができた。	オリジナリテイーはないが、相手が誘うことができた。	相手を誘う表現を全く使用することができなかった。単語の羅列や意味の通らない文になっていた。
role A (誘う)	4	2	0	0
role B (断る)	4	2	0	0
pair working	お互いに助け合い、会話をスムーズに進めることができた。 ①最初と最後の挨拶 ②待ち合わせ日時 ③待ち合わせ場所 以上要素3つすべて会話の中に取り入れることができた。	どこちなさはあったものの、会話最後まで進めることができた。 要素3つすべてを会話の中に取り入れることができた。	2分以内に最後まで会話を進めることができなかった。または、要素3つのうち1つが足りなかった。または最後まで会話は進んだが、教員の助けが必要だった。	2分以内に最後まで会話を進めることができなかった。 要素3つのうち、2つ以上が欠けていた。
non-verbal communication	1 0 効果的に身振り手振りやアイコンタクトを使用して会話を進めることができる。	6 身振り手振りやアイコンタクトを意識している。	3 身振り手振りやアイコンタクトを全く意識していない。	0
voice	3 適度な音量で、はっきりと最後まで聞き取れる。	2 声はやや小さい/大きい 声が聞き取れる。	0 声が小さすぎて聞き取る ことができず、発音に著しい間違いが見られる。	0
total score	3	2	0	0
				/ 20

巻末資料⑤

平成26年度 1年生 第1回 ライティングテスト 実施要項

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身につけた表現活動を利用して、記述形式で評価することにより、活発な言語活動の一助とする。

対象 1年生全員

科目 英語表現 I

日程 6月9日～13日の間の1時間を利用し、実施する。(各教科担当で設定する)

実施方法 英語表現 I の授業時に各教室で20分間(20点満点)の記述形式で行う。

試験内容

インタビューの内容を参考に、あなたの英語の先生について紹介しなさい。

生徒は、50語以上～80語の英語を書くこと。50語に満たない生徒、あるいは80語を超える生徒は減点対象になります。また50語に満たない生徒は、大幅な減点対象になります。

評価表

Class () No () Name ()

(1) Word length (語数) (3段階評定)		Score
2	50～80語	
1	11～49語 または81語以上	
0	0～10語、または一文しか書かれていない。	
※50語に満たない作品については、(2)～(3)の項目に上限をもうける。 また、一文以下の場合は各項目で0点とする。 ※左列数字：50語以上 右列数字：50語未満		
(2) Content (質問の内容と書かれた英文の関連性) (4段階評価)		Score
8	3 一貫して与えられた題材に関連した英文が書かれている。	
5	2 与えられた題材について英文が多く書かれているが、題材と関連性の低い英文も書かれている。	
2	1 与えられた題材に関連した英文が少ししか書かれていない。ほとんどの文において題材との関連性が低い。	
0	0 与えられた題材について全く関連したものが書かれていない。	
(3) Accuracy (センテンスレベルの正確さ・意味の正確さ) (5段階評価)		Score
10	5 センテンスにはほぼ間違いがない。語句が適切に使われて自然な英語である。文の長さが適当である。	
8	4 3単元のSや、冠詞、スペリング等のミスがあるが、理解には支障をきたさない。	
6	3 SVなどの文の構造はほぼできている。文法上の間違いがある。意味が分からない、または誤解を招く部分が多い。	
4	2 SVなどの文構造に間違いが比較的多くある。意味が分からない。または、誤解を招く部分が目立つ。	
2	1 文の構造に間違いがある。語の意味を間違って使っており、読み手が理解できない部分が多い。	
0	0 十分な英語が書かれていない。	
TOTAL		

⑥ 巻末資料

平成26年度 1年生 第2回 ライティングテスト 実施要項

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身につけた表現活動を利用して、記述形式で評価することにより、活発な言語活動の一助とする。

対象 1年生全員

科目 英語表現 I

日程 11月4日(火)～11月7日(金)

4日間の1時間を利用し、実施する。(各教科担当で設定する)

実施方法 英語表現 I の授業時に各教室で20分間(20点満点)の記述形式で行う。

試験内容

授業で学習したことを参考に、好きな本や映画を紹介する英文を書きなさい。

※生徒は、60語以上～90語の英語を書くこと。
60語に満たない生徒は、大幅な減点対象になります。

評価表

Class () No () Name ()

(1) Structure of content (内容の構成) 各項目ごとに評価			Score
① Introduction	導入 (introduction) 部分において、本や映画のタイトルが書かれている。	書かれている	1点
		書かれていない	0点
② Body	誰によって、いつ書かれた (作られた、公開された) か、誰が役者か、どのようなジャンルの映画 (本) か、のいずれか2つについて書かれている。	書かれている	2点
		書かれていない	0点
③ Body	本や映画の内容が書かれている。	4文以上	4点
		3文	3点
		1～2文	2点
		書かれていない	0点
④ Body	本や映画に対する自分の感想や意見が書かれている。	書かれている	2点
		書かれていない	0点
⑤ Conclusion	スピーチを締めくくることが書かれている。	書かれている	1点
		書かれていない	0点
(2) Accuracy (センテンスレベルの正確さ・意味の正確さ) (5段階評価)			Score
センテンスにはほぼ間違いがない。語句が適切に使われて自然な英語である。文の長さが適当である。※3単元のS、冠詞、スペリングにミスは1～2つ。※文法上の間違いは0～1個			10
3単元のSや、冠詞、スペリングのミスがあるが、理解には支障をきたさない。(上記のミスの数については合計で3～6個を目安) その他における文法上の間違いがほとんどない(文法上のミスが2個～3個)			8
SVなどの文の構造はほぼできている。文法上の間違いがある(上記に関するミスが4～5個)。意味が分らない、または誤解を招く部分がほとんどない。			6
SVなどの文構造に間違いが比較的多くある。意味が分らない、または、誤解を招く部分が目立つ。(上記に関するミスが6つ以上)			4
SVなどの文構造に間違いが多くある。語の意味を間違えて使っており、読み手が理解できない部分が多い。十分な英語が書かれていない。			2
0			0
TOTAL			

巻末資料⑦

平成26年度 2年生 第1回 ライティングテスト 実施要項

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身につけた表現活動を利用して、記述形式で評価することにより、活発な言語活動の一助とする。

対象 2年生全員

科目 英語表現II

日程 6月9日(月)～6月20日(金)の間の1時間を利用し、実施する。

実施方法 英語表現IIの授業時に各教室で20分間(20点満点)の記述形式で行う。

試験内容 アメリカ人の友人にE-mailを書く。

①始めの言葉、②自分が訪れてみたい都市とその理由、③そこで何をしたいか、④さらに一言付け加えることを、段落構成を用いて書く。

評価基準 (1)語数 (2)内容 (3)構成 (4)文法の4点から評価する。

Can Do List : 【書くこと③】聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。

その他 各授業担当者が監督、採点を行う。

採点する前の答案をコピーし、学年分まとめて保存する。
生徒は辞書(紙辞書、電子辞書問わず)を持ち込むことができるが、辞書の例文をそのまま引用することは禁止とする。そのようなことがあった場合、評価しない。**5.0語**以上書くことを原則とする。白紙の場合は評価しない。事前に生徒に対して、説明プリントを配り、評価基準を伝えておく。
テスト結果は後日返却する。

評価表 CLASS() NO.() NAME()

評価項目	評価基準				SCORE
	90語以上	89～70語	69～50語	49～30語	
語数	10	8	6	4	29語以下
内容	内容が独自性に富み、表現が豊かである。	内容を理解することができる。独自性も見られる。普通。	列文と似ており、独自性に乏しい。	内容が乏しい。	
構成	①始めの言葉、②自分が訪れたい都市とその理由、③そこでやりたいこと、④さらに一言、4つの要素が全て含まれており、段落構成がきちんとしていてわかりやすい。	①～④の要素が混在している箇所が見受けられるか、4つの要素のうち1つが欠けている。	一つの段落に2つ以上の内容が混在している箇所が見受けられるか、4つの要素のうち1つが欠けている。	段落構成を全く無視していたり、2つ以上の要素が欠けている。	
文法	文法的なミスはほとんどみられない。(同詞や複数形などのミスレベルが5つ程度まで)	文法的なミスはみられるが、内容がわかる。	文法的なミスはみられるが、内容はわかる。	文法のルールをまったく無視している。	
TOTAL SCORE	2	1	1	0	/20

⑥資料末巻

平成26年度 2年生 第2回 ライティングテスト 実施要項 (案)

目的 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身につけた表現活動を利用して、記述形式で評価することにより、活発な言語活動の一助とする。

対象 2年生全員

科目 英語表現Ⅱ

日程 2月9日(月)～2月13日(金)の間の1時間を利用し、実施する。

実施方法 英語表現Ⅱの授業時に各教室で20分間(20点満点)の記述形式で行う。

試験内容 環境問題の中から一つを選び、私たちがなすべきことは何かを英語で述べる。
global warming / destruction of forests / acid rain / garbage disposal problem

以下の5つの内容を含める

①どの問題について述べるか、②何でその問題について知ったか、③その問題でどのような困ったことがおきているか、④その問題の解決のために私たちは何をすべきかそしてその理由は何か、⑤問題解決に向けてさらに一言

次の3つの表現をそれぞれ1回は使うこと。

接続詞(等位接続詞または、従位接続詞)、助動詞、to不定詞

評価基準 (1) 語数 (2) 表現 (3) 構成 (4) 文法 (5) holistic impression の5点から評価する。

Can Do List : 【書くこと⑥】聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。

その他 各授業担当者が監督、採点を行う。
採点する前の答案をコピーし、学年分まとめて保存する。
生徒は辞書(紙辞書、電子辞書問わず)を持ち込むことができるが、辞書の例文をそのまま引用することは禁止とする。そのようなことがあった場合、評価しない。**5.0語**以上書くことを原則とする。白紙の場合は評価しない。事前に生徒に対して、説明プリントを配り、評価基準を伝えておく。
テスト結果は後日返却する。

評価表

評価項目	評価基準					SCORE
	70語以上	50～69語	30～49語	20～29語	19語以下	
語数	8	6	4	2	0	
表現	指定された表現がすべて適切に使われている。	指定された表現のうち、2つが適切に使われている。普通。	指定された表現のうち、2つが適切に使われている。普通。	指定された表現のうち、2つが適切に使われている。普通。	指定された表現のうち、2つが適切に使われている。普通。	
構成	段落構成がきちんとしておりやすい。	段落構成がきちんとしておりやすい。	一つの段落に2つ以上の内容が混在している箇所が1つ見受けられる。	一つの段落に2つ以上の内容が混在している箇所が1つ見受けられる。	段落構成を全く無視している。	
文法	文法的なミスはほとんどみられない。(冠詞や複数形などのミスレベルが5つ程度まで)	文法的なミスはほとんどみられない。内容はわかる。	文法的なミスはほとんどみられない。内容はわかる。	文法的なミスはほとんどみられない。内容はわかる。	文法的なミスはほとんどみられない。内容はわかる。	
holistic impression	優れた内容である。	優れた内容である。	言いたいことは理解できる。普通。	言いたいことは理解できる。普通。	言いたいことが明確に伝わらない。	
TOTAL SCORE	2	2	1	1	0	

※生徒の個人名は削除してあります。

English Expression 1

Lesson 2 Meet my best friends

Group 3

CLASS: NO. NAME DATE:

[Group activity]

Task 選んだ先生に英語でインタビューをしながら、※グループで行う。

※紹介をする先生を一人選びなさい。Choose one English teacher from the following list.

※原則、担当の先生か Andrew 先生のどちらかを決めてください。

★選んだ先生に英語でインタビューをしながら、※グループで行う。

<質問例> 全て英語で聞きましょう。

- ・どこ出身か。・誕生日はいつか。・何の教科を教えているか (英語で何と聞きますか?)。
- ・高校生の思いで。・趣味は何か。・好きな食べ物は何か? ・なぜ教師になったか? ・どういう性格か?

インタビューの質問リストを書きなさい (まずは日本語で、そのあと英語にする)

※質問は必ず 6~10 個準備すること。

- | Japanese | English |
|-----------------------|---|
| ① (誕生日はいつか) | (when is your birthday?) |
| ② (どこ出身か) | (where are you from?) |
| ③ (なぜ教師になったか) | (why did you become a teacher?) |
| ④ (趣味は何ですか) | (what is your hobby?) |
| ⑤ (あなたの好きな食べ物は何ですか) | (what was your best memory in that school?) |
| ⑥ (好きな教科は何ですか) | (what animals do you like?) |
| ⑦ (あなたの好きな動物は何ですか) | (what is the hardest thing in your life?) |
| ⑧ (あなたの好きな科目は何ですか) | (what Japanese food do you like?) |
| ⑨ (あなたの好きな動物は何ですか) | (Do you have any children?) |
| ⑩ (どこ出身の先生ですか) | (where are you from?) |

インタビューを終えたら必ず印章を先生からもらってください。

※このインタビューはライティングテストにつながります。

インタビューの内容をメモしなさい

1. Apple
2. Japan Niigata
3. 4 years old
4. reading books, watching movie, listening to music
5. hamburger, pizza, chocolate
6. I like dog, cat
7. 20 years old
8. teacher and teacher (children) boy (year and month)
9. (teacher) (year and month)
10. (teacher) (year and month)

インタビューの内容を英文で書きなさい

1. His birthday is April 1st (S)
2. He is from Niigata in Japan. (6)
3. Because when he was junior high school student (17) his teacher was very good, so he wanted to be like his teacher.
4. He likes reading books, watching movie, listening to music and go shopping with his family. (S)
5. His best memory is a hamburger. (S)
6. His hobbies were very hard. He enjoyed talking with his heart, he likes dogs and cats. (S)
7. He had to study very hard because he had to join in university.
8. He loves Japanese food such as sushi and udon.
9. He has a child. He is a boy. (1 year and 10 months)
10. He has ever been to Australia, Hawaii and Canada. (9) 99

第1回 ライティングテスト

【問題】インタビューの内容を通して、あなたの英語の先生について紹介しなさい。

※一行目と最後の行に書かれている文は生後の題数としてカウントしません。

I would like to introduce my English teacher, (Mr. Ikeda).

His birthday is April 1. He is from Niigata in Japan. Because when he was a junior high school student, his teacher was very good. So he wanted to become like his teacher. He likes reading books, watching movies, listening to music and go shopping with his family. He loves Japanese foods such as sushi and sashimi. He has a child. He is 1 year and seven months. He has been to Alaska, Hawaii, and Canada.

That's what I've learned about (Mr. Ikeda). Thank you very much.

75

SCORE (20 / 20)

英語 夏休み課題 英作文

Assignment



1. 内容：夏休みにやっった印象に残る出来事
2. 語数：200 語以上
3. 形式：以下の内容をすべて含めて、段落に分けてわけてわかりやすく書くこと

(ア)いつ、誰と、どこへ行ったか

(イ)そこで何をやったか

(ウ)その結果何を感じたか

4. 提出日：全員最低 2 回以上提出する。

1 回目：9月2日（火）帰りのSTで集めて、英語表現の担当者に提出すること。

2 回目：1 回目に出した課題について、添削をして返却します。もう一度、改めて書き直したものを、**9月26日（金）**までに提出すること。

3 回目～5 回目：意欲のある人は提出してください。1 回ごとに 2 ポイントの平常点を加算します。**3 回目以降の最終提出期限は、10月7日（火）です。**

作文の例

My Summer Vacation

①On August 11th, I went to 'Shimanami Kaido (しまなみ海道)' by myself. It is a road that connects Imabari (今治) in Ehime to Onomichi (尾道) in Hiroshima. The 70 kilometers route runs over 'Seto Inland Sea (瀬戸内海)'. It connects six islands with seven long bridges.

②Now I want to tell you three things I enjoyed in Shimanami Kaido.

③First, the panoramic views from the bridges were very beautiful. Especially the view from 'Kurushimkaikyō-Ohasi (采島海峡大橋)' was my favorite. The 4500 meters bridge is the longest of these seven bridges. It is 65 meters high. While I was crossing the bridge, I felt as if I was flying over the sea.

④Second, I enjoyed a lot of delicious seafood. My favorite fish was 'Ako'. It was a white meat fish that had a unique texture. You can't eat this fish outside of Seto Inland Sea because there are not many.

⑤Third, Shimanami Kaido is friendly to users. For example, there is a blue line along the cycling road. So I didn't have to worry about missing the route and I could enjoy cycling.

⑥Nowadays cycling has been more popular. Especially a lot of people in Taiwan began to come to Shimanami-Kaido. I want to enjoy cycling with people from foreign countries some day.

☆夏休みの思い出(各段落の最初の文に段落番号を書きなさい。各段落の最初の文は2センチ程度空けて書くこと)

①

2年 組 番 名前

巻末資料⑪

愛知県立惟信高等学校 平成 26 年度入学生用 CAN-DO リスト (1 版)

	1 年	2 年	3 年
<p><理解> 読むこと Reading</p>	<p>1-1 コミュニケーション英語Ⅰの教科書(1600語レベル)を読んで、概要や要点をとらえることができる。</p>	<p>2-1 コミュニケーション英語Ⅱの教科書(2300語レベル)について、速読したり精読するなど目的に応じた読み方ができる。</p>	<p>3-1 コミュニケーション英語Ⅲの教科書(3000語レベル)について、速読したり精読するなど目的に応じた読み方ができる。</p> <p>3-2 看板、メニュー、携帯メール、簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われている非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。</p> <p>3-3 簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。</p>
<p><理解> 聞くこと Listening</p>	<p>1-1 かなり配慮して、1文ずつ、ゆっくり話してもらえば、教師による英語での簡単な指示・説明を聴いて理解することができる。</p> <p>1-2 かなり配慮して、1文ずつ、ゆっくり話してもらえば、ごく簡単な英語で話された、事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p>	<p>2-1 ある程度配慮して話してもらえば、教師に英語での指示・説明を聴いて理解することができる。</p> <p>2-2 ある程度配慮して話してもらえば、簡単な英語で話された、事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p>	<p>3-1 はっきりとした発音で話してもらえば、教師による英語での指示・説明を聴いて理解することができる。</p> <p>3-2 はっきりとした発音で話してもらえば、分かりやすい展開の、事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p>
<p><話すこと> 発表 Spoken Production</p>	<p>1-1 英語の授業の中で、教師に簡単な質問をしたり、許可を求めることができる。</p> <p>1-2 絵を見て、風景や状況を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単に描写することができる。</p> <p>1-3 前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。</p> <p>1-4 基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)や簡単な情報(時間や日時、場所など)を伝えることができる。</p> <p>1-5 前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。</p>	<p>2-1 英語の授業の中で、教師に質問をしたり、許可を求めることができる。</p> <p>2-2 絵を見て、風景や状況を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。</p> <p>2-3 一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。</p> <p>2-4 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。</p> <p>2-5 一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由をあげて短く述べるることができる。</p>	<p>3-1 英語の授業の中で、教師に質問をしたり、許可を求めることができる。</p> <p>3-2 絵を見て、風景や状況を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。</p> <p>3-3 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。</p> <p>3-4 一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由をあげて短く述べることができる。</p> <p>3-5 使える語句や表現を繋いで、自分の経験や夢、希望を順序だてて、話しを広げながら、ある程度詳しく語るることができる。</p>
<p><話すこと> やりとり Spoken Interaction</p>	<p>1-1 教師による、英語での簡単な指示に対して簡単な応答することができる。</p> <p>1-2 あいさつをはじめとして、簡単なやりとりをかわすことができる。</p> <p>1-3 なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。</p> <p>1-4 家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。</p>	<p>2-1 教師による、英語での指示・説明に回答することができる。</p> <p>2-2 自分のことなど、なじみのある話題について英語で短いやりとりができる。</p> <p>2-3 基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができないかや色についてのやりとりなど)、において単純に回答することができる。</p> <p>2-4 趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。</p> <p>2-5 基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受れたり、断ったりすることができる。</p>	<p>3-1 教師による、英語での指示・説明に回答することができる。</p> <p>3-2 簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。</p> <p>3-3 予測できる日常的な状況(郵便局・駅・店など)ならば、様々な語句や表を用いてやりとりができる。</p> <p>3-4 身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。</p>
<p><書くこと> 書くこと Writing</p>	<p>1-1 簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。</p> <p>1-2 自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。</p> <p>1-3 趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。</p> <p>1-4 日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。</p>	<p>2-1 文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>2-2 身の回りの出来事や趣味、場所などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。</p> <p>2-3 聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。</p>	<p>3-1 自分に直接関わりのある環境(学校、職場、地域など)での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。</p> <p>3-2 身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、道筋を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。</p>
<p>外部指標 <目標></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英検3級(全員) ・英検準2級(5%; 18名) ・受容語彙: 2000語 <p>*中学校(1200)+コミュ英I(400)=1600語 *英検3級≒中学卒業程度(2000語レベル) [身近な英語を理解し、また使用することができる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英検準2級(15%; 45名) ・英検2級(1%; 3名) ・受容語彙: 3600語 <p>*1年次まで(1600)+コミュ英II(700)=2300語 *英検準2級≒高校中級程度(3600語レベル) [日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英検準2級(40%; 140名) ・英検2級(3%; 10名) ・受容語彙5000語 <p>*2年次まで+コミュニケーション英語III(700)=3000語 *センター試験(4000語超) *英検2級≒高校卒業程度(5000語レベル) [社会生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。]</p>

巻末資料⑫

平成 26 年度 年間学習指導計画

学年	1年	単位数	3	科目名	英語表現 I
教科書	Grove English Expression I (文英堂)		副教材	LEARNER'S ENGLISH GRAMMAR in 21stages	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
評価の観点及びその趣旨	1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			2 外国語表現の能力 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	
	3 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			4 言語や文化についての知識・理解 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化を理解している。	
評価方法	①定期考査 ②小テスト ③授業中の活動参加(発言、ペア/グループワーク、発表など) ④課題 ⑤ライティングテスト				

月	Lesson / Title	Grammar	言語活動	CAN-DO リスト															CAN-DO 重点ポイント (ルーブリックによる評価)					
				話す 発表					話す やりとり				書く				聞く			読む				
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	1					
4 5 5	Self introduction		自己紹介のスピーチに用いられる表現を学習する。自己紹介文の原稿を書く。それをもとに生徒と情報交換する。				○	○								○	○	☆			○	○	書①簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	
	Lesson1『新しい学年が始まります』	S+V(=一般動詞) S+V(=be動詞)	この課のポイントを使って、クラスメートを紹介する英文を書く。		○					○	○										☆	○	○	書④日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。
	Lesson2『親友を紹介します』	S+V+C S+V+O	この課のポイントを使って、先生やその他に人物のインタビューを聞き、紹介する英文を書く。							○	○										☆	○	○	書④日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。
	Lesson3『起きなさい』	動詞の現在形 現在進行形	この課のポイントを使って、自分の日ごろのスケジュールを英語で書く(言う)。また、絵を見て描写する。		○		○									○	○	☆				○		書①簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。
6 5 7	Lesson4『よい週末を』	動詞の過去形 未来形『will』	休日や週末など、過去にしたことについて、紹介する英文をつくり、グループ内で発表をする。																			○	○	発④基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)や簡単な情報(時間や日時、場所など)を伝えることができる。
	Lesson5『メールで連絡することができます』	助動詞『can』『～できる』 助動詞『must』 『～しなければならない』	グループ内で、悩み事や問題に対して『You should～、You must～』の形で助言を与える。							○	○										☆	○	○	や④家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。
	Performance Test I HOW TO MAKE A SPEECH① Self-Introduction『自己紹介』		自己紹介をするエッセイを書く。																		☆	○		書③趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。

月	Lesson / Title	Grammar	言語活動	CAN-DO リスト															CAN-DO 重点ポイント (ルーブリックによる評価)					
				話す 発表					話す やりとり				書く				聞く			読む				
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	1					
9 5 10	Lesson6『どんな町に住んでいますか』	接続詞『when』 距離、時刻、天候の『it』	通学区域の市(区、町、村)を紹介する英文をつくり、グループごとに発表をする。				☆			○	○											○		発③前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。
	Lesson7『夏が来ました』	S+V(=sendなど)+O1+O2 S+V(=keepなど)+O+C	自分の好きな四季の行事や過ごし方について紹介する英文をつくる。グループ内でそれぞれの季節に関する単語やその使い方を調べる。							○	○	○				○	☆				○		書③趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。	
	Lesson8『何か変わったことがありましたか』	There is(are) S+be動詞 + 過去分詞 (by～)	身の回りの出来事について友人と話し合い、発表をする。 What's new?から会話を始めて					○										☆				○		や④家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。
1 5 11 2	Lesson9『何を読んでいますか』	現在完了形	自分の経験(行ったことがある場所、やったことがあること)を感想を交え紹介し、それをもとにやりとりをする。					○	○									☆				○		や④家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。
	Lesson10『お昼を食べましょう』	現在完了進行形	グループで絵や写真をヒントに状況に合わせた英文(現在完了進行形を含む)をつくり、発表をする。				☆			○	○											○		発③前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。
	Performance Test II HOW TO MAKE A SPEECH② Traveling『旅行』		写真や地図等を使用し、今までに行ったことのある旅行先を紹介するエッセイを書く。																			☆	○	書③趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。
	E-mail Communication I		INTRODUCTION / BODY / CONCLUSIONを意識して、ALTに自分のことを紹介するE-mailを書く。																			☆	○	書③趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。

月	Lesson / Title	Grammar	言語活動	CAN-DO リスト															CAN-DO 重点ポイント (ルーブリックによる評価)					
				話す 発表					話す やりとり				書く				聞く			読む				
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	1					
1	Lesson11『スポーツは好きですか』	比較級、最上級	身の回りの出来事や人物について紹介する英文(比較級、最上級を含む)をつくり、グループごとに発表をする。				☆			○	○											○		発③前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。
2 5 3	Lesson12『ペットを飼っていますか』	現在分詞、過去分詞	グループで絵や写真をヒントに状況に合わせた英文(現在分詞、過去分詞を含む)をつくり、発表をする。				☆			○	○											○		発③前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。
	Lesson13『趣味は何ですか』	動名詞、不定詞	余暇の過ごし方や趣味についてお互いにインタビューを行い、それをもとにやりとりをする。					☆		○	○											○		発④基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)や簡単な情報(時間や日時、場所など)を伝えることができる。
	Performance Test III		余暇の過ごし方や趣味について段落を意識してエッセイを書く。																			☆	○	書③趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。